



1階の6畳和室の壁をプチ抜き、そこをインナーガレージにしたいという念願のプランに遂に動きがあり、壁の撤去と基礎施工がスタート。家はフルスケルトン状態になり、壁や床にピッタリと断熱材を入れ、各部を補強したことで家自体のスペックが格段にアップ!

自分たちも一部作業を担当してみました!

1985年築の昭和丸出しな実家を、手放すのではなくリノベしようという当企画。カスタムカーの世界でお馴染みの“レスト・モッド”の手法を家にも転用し、クルマ好きの理想であるガレージ住宅を作り上げていきます!

PORN SUZUKI'S #05 HOUSE RENOVATION PROJECT

Text&Photo/Takayoshi SUZUKI

ひたすら作業...



塗った後にカラ拭きするだけでムラ無く仕上がる!

塗布直後はハケ目が残ってまだらに見えても、5分ほど乾燥させてカラ拭きすると、ムラ無く均一に色が入っている。塗布時は木目に沿って塗り込むといった程度の気遣いは必要だが、少し雑にガンガン塗っても拭き取れば均一に馴染んでいる様は感動する。

超重要! 塗布後の布類は発火の危険性アリ!



塗布やカラ拭きに使う布は、そのままにしておくと発火の危険性がある。っていうか、マジで燃えました。発火というよりじんわり燃える感じだったが、思わぬ事故となる危険性大。作業を終えたウエスは必ず水をたっぷり含ませたから処分! マジで!



1度塗りでしっかり着色とコーティングが完了

ルビオモノコートをドバッと流してトレーに溜めたら、あとはゴシゴシとコテバケで塗っていくだけ。1度塗りでしっかり色が入ってなおかつコーティングも完了するので、重ね塗りの必要なし。亜麻仁油ベースの天然素材でできているので塗布中のニオイもなんだか良い香りだ。



キワキワはしっかりマスキング

今回は濃いめの色であるブラウンを選んだので、壁や器具のキワまで塗る場所はしっかりとマスキングをして対応。大事なひと手間だ。



子供たちは描いのツナギを着て作業を開始。天然素材で遊ぶリアル「スプラトゥーン」みたいなものと解釈してくればそれでイイ。

コレ簡単だね



完成!



筆者の引越し及びDIY作業には必ず助けてもらっている友人のテラム君も招聘。彼の助けもあって、塗布&カラ拭きは2時間もかからずに終了。ルビオはこの後24~36時間の乾燥時間をおくことで、しっかりと乾いてフローリングに定着する。

キッチンも着々と進行中 2



屋根裏収納はスペースを拡大予定

元から備わっていた屋根裏収納はスペースをもっと広げられる余裕があったので拡張することに。屋根裏の床位置を下げて大人が立てる高さに容積を増やす案もあったが、それよりもリビングの天井を上げる方を選んだ。



キッチンは2Fの南東側に配置。機器は結局タカラのホーロー製をチョイスした。壁面にはToolboxで選んだタイルを組む予定で、そのタイルのピッチ感も熟慮を重ねて決定。キッチンにまつわる全ての意思決定は、自分だけでは無く妻の意見も聞いて行っている。大事なことです。



両親がこの実家を建てるとなったときの動きは、今でも色々覚えてる。それまではマンション住まいで、立地は駅前、居住者用にブル、テニスコート、ミニゴルフ場などを備えた施設複合型の先駆けのような面白い場所(昭和47年築なのでハイソな感じではなく、大衆感漂う当時のニューファミリー向け)だった。筆者はその家で生まれ育ったが、そこに自分だけの部屋はなかった。やがて小学校高学年になり、「オレはいつになったら自分の部屋を持てる

自分たちの手でオイルを塗ろう!

1 フローリングへのオイル塗布は家族と友人総出で作業

LDKスペースに使うパーケットフローリングとそこに塗布するオイルはこちらで用意したので、その塗り込みまで自分たちでやっていくことに。



2階 LDKは全面パーケットフローリング敷き!

2階LDKは当初普通のフローリング敷きにするつもりだったが、「Toolbox」でプッシュされたパーケットタイプを思い切って採用。納品時は生木のままだが、これにオイルを入れると良い表情に。

Profile ポルノ鈴木

人生最大の買い物である「実家リノベ」もしっかり記事化して売文に励むフリーダム・ライター。「ローンがあれば何でもできる!」「やる気、元気、借金!」を合言葉に巨大ローンに立ち向かっている毎日。一国一城の主であり、一コクー痴情の主ではない。



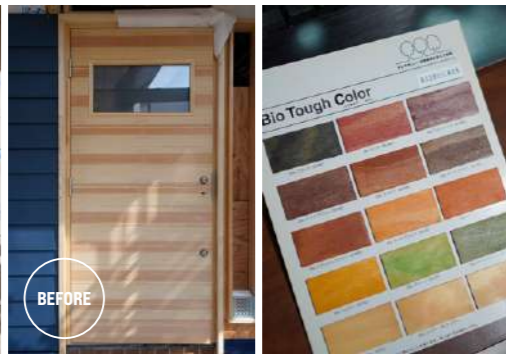
Toolboxで扱っているルビオは5色展開。事前に何色が試させてもらい、その中で「ブラウン」を選択した。



ルビオモノコートをみんなで塗っていきませ

ルビオモノコートの塗布に必要なのは、ホルダーとパッドがセットになった専用のコテバケ(塗装パッド)とオイルを溜めるトレー、拭き取り用のウェスのみ。拭き取り用ウェスは、引越時に際して捨てようと思っていた古いバスタオルを手頃な大きさに切って活用。

AFTER



BEFORE

4 玄関ドアはオレンジに

玄関ドアはラップサイディングの外壁と雰囲気が合うように、ウッド製のものを選択。生木の状態で納品されるので、パーケットフローリング同様オイルで塗装した。こちらはパイオタフカラーを使用し、アクセントになるように色は明るめのオレンジをチョイス。塗布作業はエーディーアンドシーの荒川さんが手伝ってくれた。思い切った配色だったが、ミッドナイトブルーの外壁との相性はなかなか良くて大満足！

使いたかった ガラスブロック

昭和住宅に見られる、玄関の
明かり採りの為のガラスブ
ロックが大好きなので我が家
にも採用。ダイヤモンドカット
の小ぶりサイズにした。



3 ガレージ床に コンクリ入りました

リノベ計画最大の山場、「1階の6畳和室の壁をプチ抜いてそこをインナーガレージにする」はこのような状態に。6畳サイズではクルマを入れると奥行きが足りない、奥側をセットバックさせる間取り変更も完了。床部分にコンクリも入ったので、「これはガレージ！」とイメージできる空間へと変貌してきた。ガレージ内は基礎を下げ、天井を上げて天井高そのものを拡大。これで内側に巻き上げていくガレージシャッターを入れても、十分なヘッドスペースが確保できるというわけだ。



1階もどんどん仕上がっています

父親は父親で、オーディオ好きが高じてこの機会に防音室を手に入れたかったらしく、ならば建て売りではなく注文建築だろうと物件探しは土地探しへとシフト。ほどなくして父親の勤務先にも近くなる場所、土地を見つけたが、ここはクルマが入りやすい場所に邪魔な電柱とその支柱があった。支柱だけでも跳ね飛ばせばなんとかなったのだが、さすがに東京電力を敵に回してまでそこに住む必要もないので断念。

そして3箇所目の候補として出てきたのが、現在のこの土地だ。予算的にはオーバーしたようだが勤務先に近く、筆者が通う学校の隣の学区だったので転校もしやすい、という判断でここに決定。地鎮祭を済ませ、

上がったきた図面を見るとそこには南向きの6畳の子供部屋が二つあった。小6でまだバカだった筆者は、「日当たりがいいほう」と南向きの部屋を選び、その後ずつと夏場は西日に炙られ続けて苦しむハメになるのだが、とにもかくにも中1の夏に引越しが完了。いろいろエロエロ多感な時期に、自分の部屋を所有することができたのだ。

このとき部屋を選べただけでなく、壁や天井の壁紙も自分に選ばせてもらえた。分厚い壁紙サンプル帳を渡され、中1のガキながら真剣に検討。あの頃「プラベっぴん」よりもじつくりと1ページずつ眺める本は、このサンプル帳以外になかった。筆者は当時「普通じゃつまらない」思想

ガレージには 窓を1箇所設置

ガレージに窓をつけたのもそうなのだが、筆者は「小窓」が好きなので(へき)があるようだ。1Fトイレには跳ね上げ式の室内窓を設置した。



ツールボックスの室内窓を導入

ガレージに窓をつけたのもそうなのだが、筆者は「小窓」が好きなので(へき)があるようだ。1Fトイレには跳ね上げ式の室内窓を設置した。



縦ぎ無垢フローリングが到着

LDKのみパーケットにしたが、その他の部屋は全面的に縦ぎ無垢フローリングを採用。こちらもToolboxで大量に購入させていただいた。



パナのお風呂も入りました

内装作業が始まった早い段階で風呂の設置は完了。事前にCGでシミュレートしているので、オーダー通りのモノがスッポリと取まっていた。パナを選んだ決め手でもあった木目調壁の質感も、なかなか良い感じだ。

この新居で暮らす時「コレは自分で塗ったんだ」と思えることが何よりの収穫だった。

PORN SUZUKI'S HOUSE RENOVATION PROJECT #05

5 外壁は絶対に ラップサイディング!

自分で家を建てる時には絶対に外壁はラップサイディングにすることに決めていた。しかし湿度大国ニッポンで木製ラップサイディングを使うのは耐久性的に不安があったので、素直に東レの外壁材を採用。色はパールブルーとミッドナイトブルーの2択に絞り込み、最終的に長男が好きであるミッドナイトブルーにした。「オマエの好きな色にしたんだぞ」と言いたい、お父ちゃん心である。



BEFORE

AFTER

